

News Release

報道関係者各位

2023年6月1日

日本CSO協会 会長 木崎 弘

国内初のCSO事業（コントラクトMR）誕生から25周年を迎えました

「わが国のCSO事業に関する実態調査」の概要

- 2022年10月時点のコントラクトMR等^{*1}の稼働人数は3,637人に増加し（前年比213人・6.2%増）、全MRに占める比率（アウトソーシング率）は過去最高を更新、初の7.0%に（同0.6ポイント増）。
- また、CSO活用企業数においても製薬業界から広くヘルスケア業界へとすそ野の広がりが継続し、最多となる155社（同17社増）となりました。

日本CSO協会では、2011年より、国内CSOにおける医薬品のマーケティング・販売に係る事業実態を調査しており、この度、2022年度のCSO市場規模【コントラクトMR^{*1}等の稼働人数、全MRに占める比率（アウトソーシング率）、CSO活用企業数 等】を発表しました。

2022年10月時点のコントラクトMR等^{*1}の稼働人数は3,637人に増加し、全MRに占める比率（アウトソーシング率）は過去最高を更新、初の7%台に達しています。

また、CSO活用企業数も、製薬業界から医療機器等の企業や医療機関（病医院・薬局）など、広くヘルスケア業界へと市場のすそ野が拡大している状況を受け、最多の155社となりました。

世界的に医療・ヘルスケアを取り巻く環境が大きく変化する中、CSO発祥のイギリスをはじめとする欧米では、経営の柔軟性を高め、新たな価値を生み出す活動に集中し、生産性を向上させるアプローチとして、“戦略的なアウトソーシング”が進展しており、CSOの活用率は10%超に至っています。

わが国でも、今年度はコントラクトMRが誕生しCSO事業が開始された1998年から25周年を迎え、顧客ニーズが高度化・多様化する中、CSOの活用方法はより戦略的なものへと進展し、従来のコントラクトMRに留まらず、MSL^{*2}やエデュケーション・ナース^{*3}等の専門職や、フィールドマーケター、トレーナー、地域包括ケアシステムの推進を支援する職種など、多様な担い手が活躍するようになっていきます。

また、特定の製品や疾患領域、エリア等を包括的に受託するCSOマネジメント型モデルをはじめとして、CSO独自のノウハウを活用し、営業・マーケティングからメディカル領域にわたる幅広いサービスが展開されています。

コロナ禍を契機に、“不確実性”への対応が重要性を増し、様々な“ニューノーマル”が加速している中、日本でも今後、CSOの「役割の深化・拡大」と「フレキシブルリソース」としての戦略的活用が進展することで、欧米並みのアウトソーシング率（10%超）へ近付くことが見込まれます。

日本CSO協会は、変化し続ける医療・ヘルスケア業界の「変革実行パートナー」として、CSOとコントラクト人財の更なる価値向上に努め、“患者中心の医療・ヘルスケア実現”に貢献していきます。

*1. MR業務に従事する者のほか、医療機器担当者やMSL（メディカル・サイエンス・リエゾン）、エデュケーション・ナース等を含む

*2. Medical Science Liaison: 疾患領域やその研究において指導的立場である医科学専門家に対し、医学的・科学的見地から情報活動を推進

*3. 臨床経験のある看護師が、患者ケアの促進等を通じて医療アウトカム向上を支援

「わが国におけるCSO事業に関する実態調査 -2022年度-」の概要

【調査対象】 日本CSO協会に所属するCSO企業5社

【調査事項】 CSO事業の動向、CSO企業およびコントラクトMRの状況

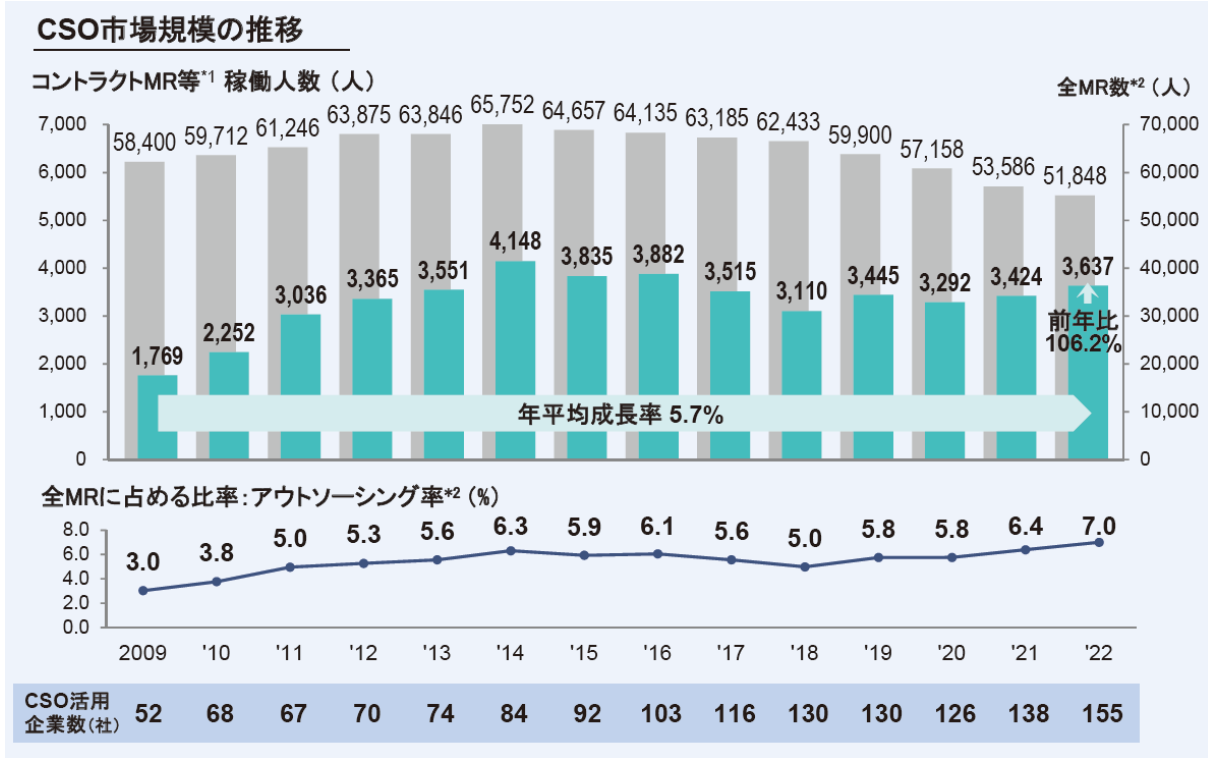
- CSO市場規模の推移（コントラクトMR等の稼働人数、アウトソーシング率、CSO活用企業数）
- 25周年企画 カスタマーサーベイ（CSOの質、今後の活用意向、期待） ほか

【調査時期】 調査時点:2022年10月1日 調査期間:2022年10月-2023年2月

添付資料 1/3

■国内CSO市場規模の推移 (別添レポート p.6)

コントラクトMR等の稼働人数*1、全MRに占める比率(アウトソーシング率)、CSO活用企業数



*1. MR業務に従事する者のほか、医療機器担当者やMSL、エデュケーショナル・ナース等を含む。2009-2011年度の稼働人数は、受注ベースの人数から実稼働数を算出。以降は実数値

*2. MR認定センター「2009年版MR白書」-「2022年版MR白書」の2008-2021年度データ(調査時点:翌年3月31日時点)

■CSOサービスの深化・拡大の状況



添付資料 2/3

■コントラクト MR 等*1 の領域経験（別添レポート p.14）

CSO サービスの深化・拡大に伴い、多領域経験者やスペシャルティ領域の担い手が増加

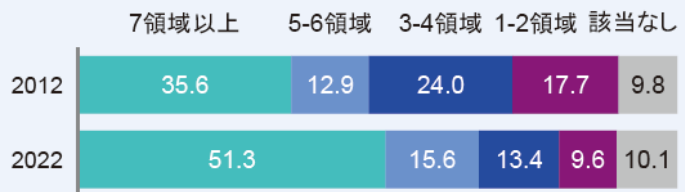
一定期間毎に多様な領域や製品を担う CSO では、多領域経験者が多いことが大きな特徴で、新薬をはじめ顧客各社の主力領域を中心に、7 領域以上の経験者が過半数、5 領域以上では 7 割弱に上っている。

また、新薬パイプラインのスペシャリティシフトを背景に、スペシャリティ領域の担い手も増加しており、中枢神経領域の経験者は 5 割弱、がん領域の経験者は 2 割強を占めている。

こうした CSO ならではの幅広い経験や専門性と中立性は、コントラクト人財における“患者中心の全人的な情報活動”の基盤となっている。

多領域経験

- 新薬をはじめ各社の主力領域を中心に、7領域以上の経験者が過半数に、5領域以上は7割弱に上っている
- こうしたCSOならではの幅広い経験と中立性は、“患者中心の全人的な情報活動”の基盤となっている

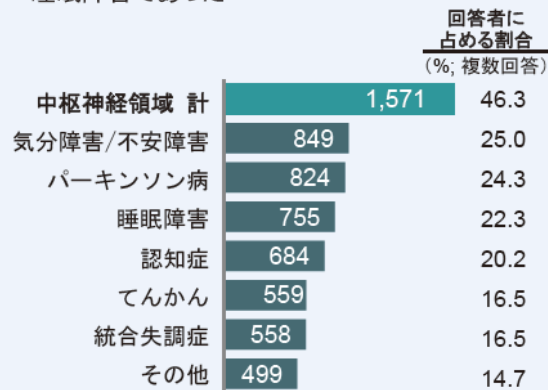


調査対象18領域

呼吸器、循環器、消化管、肝・胆・膵、腎、血液、代謝、内分泌、アレルギー、膠原病、神経・筋、精神、整形外科、泌尿器、皮膚、小児、眼、耳鼻

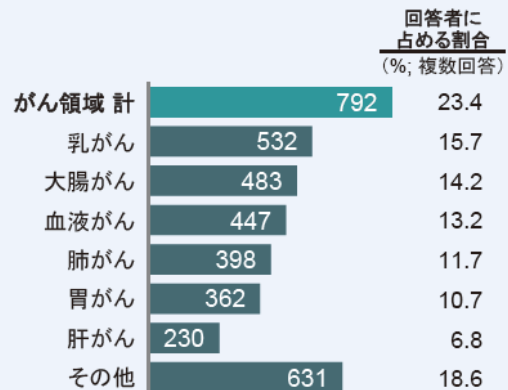
中枢神経領域

- 1年以上の実務経験者のうち、中枢神経領域の経験者は5割弱(46.3%)であった
- トップ3は気分障害/不安障害、パーキンソン病、睡眠障害であった



がん領域経験

- 1年以上の実務経験者のうち、がん領域の経験者の割合は2割強(23.4%)であった
- トップ3は乳がん、大腸がん、血液がんであった



n=3,390人

CSO 協会加盟各社の 2022 年 10 月 1 日時点の在籍 MR 等*1 を対象としたアンケート調査(有効回答数:3,520 人)

*1. MR 業務に従事する者のほか、医療機器担当者や MSL、エデュケーショナル・ナース等を含む。

このうち 1 年以上の実務経験を有する 3,390 人において、対象 18 領域および中枢神経・がん領域における 1 年以上の領域経験を集計(前職経験含む)

添付資料 3/3

■ 25周年企画 カスタマーサーベイ: CSOの“質”について (別添レポート p.22-23)

- 各社の継続的な取り組みと協会の業界横断的な質の向上活動により、全指標で一定の評価が得られている
- 従来の役割を基盤に、顧客における様々なイニシアチブの“チェンジエージェント”として、新しいコマmercialモデルへの変革を加速する役割が期待されている

